

（ 数学Ⅲ ） 学習指導案					
学年・組	3 年 6 組	教室	3 0 6 教室	指導者	吉見 壮太
単 元	第5章 微分法		教科書	新編 数学Ⅲ (数研出版)	
指導 目 標	1 微分法についての理解を深めさせるとともに、その有用性を認識させ、事象の考察に活用できるようにさせる。		指 導 計 画	第1節 導関数	
	2 数学Ⅱでの微分法の学習をやや厳密に再度最初からとらえ直させるとともに、より深い内容へと発展させ、微分法の応用、積分法の学習の準備をさせる。			1 微分係数と導関数・・・・・・・・・・2時間 (本時はその1時間目) 2 導関数の計算・・・・・・・・・・5時間 補充問題・・・・・・・・・・1時間	
本 時 の 指 導 過 程	主題	微分係数と導関数			
	目標	1 数学Ⅱでの既習事項を視覚的イメージとともに再確認をし、学習内容の定着をさせる。 2 関数の微分可能と連続について、その関数のグラフとの関係を理解させる。			
	課題	課題プリント			
	学習活動		時間	指導上の留意点	資料・評価規準等
	導入	1 2次関数を用いて、平均変化率、微分係数、導関数、接線の方程式について復習をする。	5	・課題プリントの問題を板書させておく。 ・より広範囲な関数を扱うことがこれからの学習となるということを理解させる。	・課題プリント 【評価規準】 ・既習事項を理解し、正しく計算できる。 (知識・理解) 【評価方法】 ・訂正ノート
	展 開	1 微分係数の定義について、確認をする。	10	・平均変化率、微分係数がグラフにおいて何を表しているのかを理解させる。	【評価規準】 ・定義等を正しく理解し、計算できる上で、それぞれの持つ意味を理解している。 (数学的な見方や考え方) 【評価方法】 ・観察および確認小テスト(後日)
2 例1を説明し、練習2を解く。		8	・グラフを用いて視覚的イメージを確立させる。		
3 関数の微分可能性と連続性について考える。		15	・定義による理解とともに、グラフとの関係も理解させる。		
整 理	4 例2を説明する。	7	・右側極限と左側極限が異なる場合、極限はないということを再確認させる。		
	1 本時の学習内容の確認と次時の予告をする。	5	・本時の学習が、今後の微分法、積分法の学習につながることを理解させる。		
備考	理Ⅲ型 生徒数 38名(男子 29名, 女子 9名)				